

遷延性意識障害患者へのアロマトリートメントの影響

Effect of aromatherapy on neurophysiological function of patients with prol

小澤 慶子、中村 美津、篠田 淳
木沢記念病院 中部療護センター

Keiko Ozawa, Mitu Nakamura, Atushi Shinoda
Kizawa memorial hospital

はじめに 遷延性意識障害患者のリハビリテーションとして五感刺激療法があるが、臭神経は障害されやすい脳神経ということもあり、臭刺激としてのリハビリが行われている施設は少ない。今回リハビリテーションの1つとしてアロマトリートメント(アロマオイルを四肢に塗り、四肢をマッサージ)を行うにあたり、患者にどのような影響があるか明らかにする。

I 研究方法 1. 対象：遷延性意識障害患者1名(29才女性)。健常者女性1名(27才女性)。2. 方法 1)患者と健常者の鼻中隔にアロマオイルを付着させ、脳波検査を行う。2)患者に60分間のアロマトリートメントを実施し、トリートメント前後の脳波、呼吸、脈拍、筋硬度計による上腕二頭筋の筋硬度を測定。

II 結果1. 鼻中隔への芳香刺激：健常者では、匂いをかいだ直後より後頭部から変化が始まり3分をピークに脳全体に θ 波、 α 波が増加した。患者も同様に3分をピークに変化した。2. 患者においてアロマトリートメントにより両側前頭葉で α 波は減少し θ 波は増加した。又、筋硬度は53Tから33Tに低下した。

III まとめ 1. 鼻中隔への芳香刺激後3分をピークに遷延性意識障害患者でも、健常者と同様の脳波変化が見られ、臭覚機能が残存していることが示唆された。2. アロマトリートメントは遷延性意識障害患者においてリラクゼーション効果が期待出来る。